

目次 contents

このテキストの特徴・構成 iv～vi

授業回	Unit 番号	Unit テーマ	Part 1	Part 2
			英文の 基本ルール	コミュニケーション 活動集
1 回	1A	主部と述語動詞	3	109
	1B	be 動詞と一般動詞	8	110
2 回	2A	肯定文・否定文・疑問文	14	110
	2B	未来表現	19	112
3 回	3	助動詞	21	112
4 回	4A	目的語・補語	27	113
	4B	「品詞」を意識しよう	32	
5 回	5A	過去形と現在完了形	37	114
	5B	修飾語を見分けよう	42	115
6 回	6A	英問英答に答える秘訣	48	
	6B	進行形と現在分詞	51	115
7 回	7	受動態と過去分詞	55	116
8 回	8	不定詞	60	118
9 回	9	動名詞	65	118
10 回	10	名詞節	72	121
11 回	11	形容詞節	78	122
12 回	12	関係代名詞と関係副詞	84	122
13 回	13	副詞節	88	123
14 回	14	過去完了形	94	
15 回	15	伝わりやすい英文を作る秘訣	99	124

このテキストの特徴

このテキストは、筆者が大学の一般教養英語授業用に半期 15 回分を作成し、それを 3 年間かけて実際に授業で使用しながら、何度も改良を加えて作り上げたものです。

内容は、基本的には英語の文法力定着を目的としたテキストです。しかし、従来のこの種のテキストには無い、かなり新しい方式を取っています。

まず第一は、何千何万何十万とある文法事項を、広く浅く全て羅列する従来の方式を改め、どうしても必要な少数の文法項目を重点的に選び、それ以外の項目を思い切って省いた点です。「必要不可欠な文法事項」とは、それがないとコミュニケーションが成立しない、あるいは成立しないと思われる事項です。) そうすることで、学習者に学びの焦点を示し、「何もかも覚えなければ英語が使えない」という誤った不安から解放することを目指しています。

第二に、「文の主部と述語動詞の発見力」と「語順訳による直読直解力」を、全編を通して繰り返しスパイラル的に高めています。これによって、複雑な英文をも大きな視野で捉えるようになり、構造がしっかりした英文を生成し、自然でスピーディーなリスニング・リーディングのコツが体得できます。

第三に、使用する例文や読み物は全部、学習者にとって意味あるものになるように工夫しています。例文は、学習者の興味関心に合わせて、明日にでも実際のコミュニケーションに応用できる、脈絡のあるものにしました。更に、各単元に 1 つずつ配置した長文（語数 140～880 語・平均 355 語）は、より良い英語コミュニケーションを行うために役立つ知識や情報を集めて書き下ろしたオリジナルです。

第四に、このテキストでは、学習者自らが文法ルールを発見するプロセスを取り入れています。そしてその文法ルールの発見を、教室の仲間との協働学習で行えるよう作られています。90 分という長い授業時間をずっと教師の説明を聞いている授業ではなく、また練習問題を解いて答の解説を聞くだけの授業でもなく、学習者が仲間と相談しあって課題を解決しながら学ぶ授業を可能にしています。

第五に、実際に教室でクラスメートと英語を使うことを通して英語コミュニケーション力を身につける方式を取っています。そのために、各ユニットには、英問英答の課題を配置し、さらにユニットごとにコミュニケーション活動が添えられています。その内容は、英語学習のための単なる字面のコミュニケーションではなく、現代を生きる若者が個性・喜び・願い・あこがれ・悩み・心配・主張を仲間とシェアし語り合える内容となっています。

「英語は決して難しくない」、「英語で語り合うことは面白い」、そう実感できる授業づくりに、このテキストが役立つことを期待します。

2020 年 9 月 1 日 静岡大学名誉教授 三浦 孝

このテキストの構成

Part

1

英文の基本ルール

ルール

各 Unit で学ぶ文法ルールの要点を学習します。このテキストでは、「これさえ解っていれば、あとは実際に使うことを通じて習得していける」という最重要文法ルールだけを厳選して学びます。言い換えれば、このテキストは英語の文法ルールを漏れなく解説したものではありません。あくまでも、コミュニケーションできる力を支えるための必要最低限の文法ルールに限って学びます。（「必要不可欠な文法事項」とは、それがないとコミュニケーションが成立しない、あるいは成立しないと思われる事項です。）

長文

その Unit の中心となる長文にざっと目を通します。ここでは、全部を理解する必要はありません。「大体何が書かれているか」を推測しながら、vocabulary hints を参考にして、とにかく最後までさっと読み通してみましょ。長文の前に置かれた「Vocabulary Hints」は、読解を支援するためのものですが、直訳直解の力を伸ばすため、可能なかぎり英英辞書的な説明をしています。理解できない単語や文の意味は、前後の文脈から推測しましょう。

内容理解

その Unit の長文の中心となるメッセージが読み取れているかどうかを確かめる質問です。この質問を先に読んでから、長文を読むやり方もできます。これは特に、テキストの後半で、長文の語数が多くなってきた時にお勧めします。内容理解の後半に、長文の内容に関する英問英答練習を入れています。英語で内容関連質問をする力や、それに英語で答える力を徐々に養成するためです。

英問英答

読んだ長文の内容について、英語の質問に英語で答える活動です。これは、読んだ長文の内容をより深く理解する力を養いながら、英語で質問する力、英語の質問に英文で答える力の養成に役立ちます。Unit 5 までは、答の英文を穴埋め式にして、答えやすくしてあります。これは、答の英文の組み立て方への慣れを作るためです。Unit 6 からは、答の英文を自力で作る方式になります。

発見学習

その課で学習した文法事項が、長文のどこに出現しているかを、探し出す活動です。文法が実際にどう働いているかを、文脈の中で確認します。目指すのは、言語データの中から自ら言語ルールを抽出できる力の養成です。ここは学習者の小グループで、お互いに知恵を出し合いながら、協力して課題に取り組みましょう。

語順訳

そのUnitの長文の中の難しそうな文について、語順訳をして意味と文構造を確認します。(きちんと日本語らしい語順に訳したい人の場合は、必ずしも語順訳にこだわる必要ありません。) もしも、ここで扱っている以外で、難解な文があった時は、先生にそれを知らせてください。

練習

そのUnitで学んだルールを実際に使って、自分の文を作ることを通して、理解を確認します。

Part

2

コミュニケーション活動集

その課で学習した内容に関連して、学習者の小グループで英語で話しあい、自分を表現し、お互いを理解する活動です。

自転車に乗るスキルと同じように、言語のルールはそれを理屈として知っていれば使えるというものではありません。実際に話したり書く必要に迫られて、思い出し・応用し・切り抜けることを通じて、体得されていくものです。ですから、言語を実際に意味ある場面で使う機会は、言語の習得に不可欠です。

今日、世界の英語話者の70%以上は、非英語圏の人々ですから、日本人同士英語で話し合うことも、十分に効果が期待できます。特に、間を置かずに相づちを打ち、聞き返し、共感を表し、提案や賛同や質問ができるようにしましょう。

なお、クラスの状況によっては、このコミュニケーション活動を授業の最初に持って行くことも可能です。これは特に、英語で話し合うことに慣れているクラスにお勧めします。

以上のように、このテキストは参加型のアクティビティーやタスクを中心に編成されているため、「学生は授業で何をしたらよいか」が明確です。このため、オンライン授業で用いた場合にも、「タスクの提示→個人あるいはグループでのタスク活動→タスクの答の共有」のサイクルで授業が回ってゆき、受講者を退屈させることがなく、適度な緊張感を持った授業が実現できます。なお🔊のマークは研究社のホームページからダウンロードできる朗読音声です。